



Fグループ会報

No.20
フェリス女学院短期大学
音楽科
Fグループ

Fグループ新役員決まる

5月31日の臨時幹事会に於て、新会長が決まりました。又、クラス幹事の承認を得て、役員会も新しいメンバーで構成する事になりました。長い間会長を務められた中島恭子さんに代わって、新しく会長になられた大島君子さんを御紹介致します。大島さんは、現在音楽学部器楽学科講師として活躍していらっしゃいます。

“いつも元気なFグループ” を目指して

大島君子（3回）



此度、中島恭子会長の任を引継ぎ、Fグループのお仕事をさせていただくことになりました。もとより非力な私が、果たしてこの重責を全うすることができますかどうか、まことに心許ないのですが、役員、幹事の皆様に存分の才を發揮していただくことを期待しながら、一生懸命に致しますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

会則によりますと、Fグループの目的として、「本会は会員相互の親睦と研修を図り、併せて母校創立の精神を尊重し、その発展を期すること」とあります。母校云々は会として最も重要な事柄であることは勿論ですが、殊にFグループの特色となっているのは、会員の研修に大力を入れている点であると思います。これは、私達の共通の研究課題である“音楽”が、学校で学べるのはほんの片の口、生涯かかっても学び盡くせるものではない巨大な相手であるからであり。しかも研究すること自体が人世に於ける大きな魅力となり得るからです。今後もこの路線をしっかりと守っていくつもりです。こうした意味で特に、直接会員の皆様のお役に立てる会でありたいのです。どうぞアイディア、御希望、御批判等をどしどしお寄せ下さいませ。又、親睦の面では、会員相互の交わりは勿論ですが、学生時代に親しく御指導いただいた、素晴らしい先生方に出来る限り御協力を頼んでおきたいと思われた時に、Fグループはいつでも健やかに活動していなければいけないと想っています。役員、幹事の方々と仲良く楽しくお仕事をして、いつも元気なFグループでいるつもりです。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

日頃、私達は何かと多忙を極める暮らしの中では、あまり同窓会のことを思うことはなく、Fグループからの何

同窓会総会報告

今年の同窓会総会は、去る6月23日、横浜山下町のホテル・ザ・ヨコハマに於て開催されました。

当日は、生憎の小雨模様で、眼下に広がる港も薄暮色にけむり、どんよりと營っていました。けれど会場は、なつかしい先生方を回み、思い出話に花が咲き、梅雨空を吹き飛ばすような明るい笑い声にあふれておりました。

今回は、山岡優子先生が横浜文化賞を受賞された事と、三宅春恵先生、倉長治子先生のお二人が、名譽教授になられた事をお祝いする会もありました。軽いお食事をとり乍ら、先生方のスピーチを頂戴致しました。

山岡先生は、情熱的で、エネルギーのパワーや内に秘めながらおやさしくお気持ちのこもったお話を下さいました。

美しくエレガントなご様子の倉長先生からは、久しぶりにいらしたウィーンのお話や御指導いただいた頃の情景が思わず浮かんで来るようなお話を伺いました。

新役員紹介

会長	大島 君子（3回）
副会長	熊本美也子（17回） 永川 恵子（25回）
書記	江原 郁子（8回） 東海林裕子（20回）
会計	齊藤 金子（11回） 藤村 公子（11回）
執行委員	久米 淳子（12回） 今井久美子（27回） (補佐) 吉岡久美子（34回） 永里 佳子（34回）
会報委員	上月 早苗（23回） 田中 薫（25回）
当番幹事	日比野智子（14回） 篠原 純子（14回） 柳原 梢子（36回） 金田 真子（36回）

会長の任を終えるにあたって

中島恭子（9回）



皆様お元気でお過ごしのことと存じます。

この度、私も、3期もの長い間会長の任を務めさせていただきましたが、6月23日のFグループ総会を以って終らせていただきました。

ふり返りますと、学校では、短期大学音楽科の終了、大学音楽学部の発足、緑園校舎、フェリスホールの建設、創立120周年記念行事、又Fグループでは、短大音楽科の歩みを一冊の本“山手の丘に音楽誕生”として発行、フェリスホール建設の為の募金活動等いろいろな事がありました。

この間、微力な私が大任を果すことが出来ましたのも偏に至らぬ私を会長として支えて下さった役員の方々のお力、会員の方々、先生方その他多くの方々の暖かい御支援のお蔭と心よりお礼申し上げます。多くのすばらしい方々との出会い、沢山の事を教えていただきました。私にとりましては何にもかえがたい貴重な経験をさせていただき感謝の気持でいっぱいございます。

Fグループもここに大きな幕を閉めました。2年後に学部の同窓生を迎えます。これからその準備を進めなければなりません。この機会に、もう一度Fグループの在り方、将来のことを考え、学部の学生とも話し合って新しい第一歩をふみ出していただきたいと思います。同窓会は常に会員一人一人が主役です。これからもみんな仲良く、協力し合ってFグループの発展を期待し、見守っていきたいと思います。

長い間、本当にありがとうございました。



かのお知らせがポストに舞込みますと、ふとフェリスの空気や、先生やお友達の顔が浮かんでくる——、その程度が普通であるように思います。同窓会との関り方はそれでよいのだと思うのです。ただ、ふと思い出された時に、又はこんな講習を受けたいと思われた時に、Fグループはいつでも健やかに活動していなければいけないと想っています。役員、幹事の方々と仲良く楽しくお仕事をして、いつも元気なFグループでいるつもりです。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

三宅先生は、いつも変わらない積極的な音楽への取り組みを温かい心に包み、当日は欠席されましたが、現在フェリス女学院理事でいらっしゃいます洋一郎先生の近況などもじめて、神様の存在や感謝の心について、胸を打たれるスピーチをなさいました。

三人の先生方は、恩師というだけでなく、一人の女性として尊敬できるすばらしい方々ばかりで、このような先生と出会い、教えを受ける機会があったという事だけでも、フェリスに学んだ意義を感じずにはいられませんでした。

総会の最後に、今回を以て同窓会会長の任期を終えられる中島恭子会長の挨拶があり、永い間ごくろう様という気持の拍手の中、閉会となりました。

あと2年で、大学初めての卒業生が誕生致します。音楽を愛し、フェリスを愛する気持ちが同じであれば、きっと同窓会の活動もスムーズに引き継がれ、将来へと発展していく事と思います。同窓生が相互に協力をし、より充実した同窓会にしたいものです。



去る4月26日幹事会の折、募金コンサートの収益金300万円と、同窓会に寄せられた寄付金200万円計500万円の目録が、募金委員より佐藤馨音楽学部長に、手渡されました。

音楽学部からのたより

より前進の使命を担って

器楽学科主任 教授 久保 浩

本造建のあの4号館から1970年の5号館完成、そして広くて明るい緑園キャンパスの誕生そして4年制の音楽学部への移行、新4号館としての現在のフェリスホールの完成とキャンパスは急激的に広がってきました。その中で器楽学科は4年制移行時の厳しい制約の中で現在のところピアノ専攻の学生に限られています。楽理学科の中で専門的にオルガンを学べるよう配慮されたオルガンの為と、全学生が1年間必修となった副科オルガンの担当は林先生をはじめ宮本、三浦各先生が指導にあたられ、学校行事や演奏会の折には莊重なパイオルガンの響きがホール中に広がります。

さてピアノに関しましては、レッスンの形態や試験の課題曲等については短大時代と基本的には変化していません。昨年、今年と室内楽オーディションが企画され、外部の演奏家とのピアノトリオ、クインテットといったアンサンブルの機会も学生に与えられています。ピアノの教員は塚原、大島、手塚、山岡、辛島、久保、宇野、安藤、宗、佐々木、河野、田村、児玉、田口、水本、高山、上原、山崎、小林(助手)の各先生方が指導にあたられています。1、2学年は、緑園キャンパスの4つある比較的広いレッスン室でされているのですが、今年度から学生数がピアノ44名(定員40)となり、2つの教室や練習室(丁度旧4号館2階位)を使わなければならぬ状態になり、レッスンが詰まると次のレッスンの先生が外で待つという苦しい状況が起っています。

4年制移行への最大の決断は「専攻実技、演奏指導を4年という予め用意された期間で、それぞれの学生を最大限に伸ばし音楽界へ果たさせたい」という悲願であったと思います。教育の評価は本当に時間がかかることです。「何が一番大切なか」を見失うことなく前進する使命を改めて感じる次第です。

先輩の皆様 私達に御支援を

声楽学科 教授 芳野靖夫

フェリス女学院大学音楽学部も後1年足らずで、1年生から4年生迄そろう、いわゆる完成年度をむかえます。

声楽学科の学生の数は今のところ1年生が33名、2、3年生がそれぞれ20名あまりで、完成年度には勢勢約110名となるはずです。学生は大学になっても、短大時代とちっとも変わらない知的で可愛いお嬢さん達です。魅惑的の方もかなり有って、小人衆のせいかお互いに競い合っている様子です。ちなみに我が芳野クラスにもトップからビリ迄の成績の子がそろっていて、試験の度に順位が激しく入れ替わるので楽しみです。

強いて短大時代の学生と違う点をあげると、大学になってからはいわゆるレベル以下の落ちこぼれ学生が居ないと言う事位でしょうか。卒業生がまだ出ていないので確かではありませんが、フェリスの声楽学科の学生の実



フェリス女学院の120年の歩み展

「明日を拓く女性たちを!」というテーマで、フェリス創立120周年記念展示会が、去る6月6日から11日まで横浜高島屋に於て開催されました。

力のレベルは、東京近郊の音楽大学の中では、芸大、桐朋、国立につぐ位のとこへ来ていると思われます。もちろん女子大学の中ではトップだと思います。何年かかるかは分りませんが、芸大、桐朋に並ぶレベルの音楽学部にしたいのが私達の夢です。それにフェリスの伝統である女性としての素晴らしい人格が加われば言う事なしです。この夢を実現させるためには、先ず一番可能性のある声楽学科が先陣を切るつもりです。フェリスの音楽学部のレベルを上げるには、先ず質のいい学生を入れる事、そして入って来た学生を質のいい教師達が一致協力して鍛え上げる事です。そして立派に社会に通用する卒業生を出し、更に質のいい学生を入れ、鍛え上げて……そして夢を実現させたいのです。今音楽学部にも大学院をつくるべく準備をしています。フェリスの卒業生の皆様! 我がフェリス女学院の音楽学部は、長い短大時代に蓄えられて来たエネルギーを今爆発させようとしているのです。どうぞ温かい御支援を下さい。そしてとりあえず質のいい受験生を一人でも多く送り込んで下さい。そして私達の夢を現実のものとさせようではありませんか。

フェリスの新しい夢「楽理学科」

楽理学科 助教授 岡島雅興

フェリスの音楽学部にユニークな创意に満ちた楽理学科が我々の夢を乗せて誕生し、3年目の今年に入り、各学年合わせて36人の大所帯となりました。兎角、楽理学科という有在は、音楽大学にあっては音楽コンクール等にも縁がなく、地味な存在であり、内面的に自己を鍛錬することはもとより、社会、文化等、多方面に向け視野を広げ、深い審美眼を磨き、旺盛な知識欲と音楽の実践、特に演奏と創作の分野に相当な力が有ることが理想とされています。

以上のように、楽理学科の目標すところは高く、広く夢一杯ですが、ややもするとのが捉えにくく、中途半端で挫折する側面も合わせ持っています。また、楽理学科の性格上、情報量の豊かさも必要であり、情報交換、カ

リキュラムの枠に入らない大学外の特別講師の招聘等、学年の枠を超えた継続的の楽理学科研究会を昨年度より組織し、意識向上を計り、現在その成果をあげつつあります。

昨年度の研究会の内容の一端を披露すると図書館関係者、音楽出版関係者による特別講師の公開講義を2回、大宮真琴先生による公開講座、ピオラ・ダ・ガンバ特別講義、その他学内講師による公開講義等、学生に大きな刺激を与えていました。また、学生自身による研究発表も次第に質が向上し、自覚と積極的な態度が我々講師にも希望を抱かせています。

研究会の活動で特筆すべきは研究会報の発行でしょう。会報では主として勉強の指針となる研究書の紹介、学生の様々な声が紙面に反映されていて、今年度より毎月1回の割合で発行されるようになりました。

カリキュラムに関するフェリスの楽理の2本の強い柱は作曲と音楽学の研鑽を積むことあります。音楽学の成果は3、4年に集中する各講座の結果を待つことになりますが、作曲に関しては1年次より創作の楽しさ、厳しさを実感させ、その結果を毎年5月にフェリスホールで自作自演の形態で、全学生の前で作品発表会を行っています。楽理科の学生全員に毎年作品を発表する機会を与えている音大は他になく、作品の質の向上と共に今後の成果が多い期待されています。現在の我々の活動が原動力となり、意欲に燃えた優秀な学生を今後数多く迎え、フェリス楽理学科の夢多い将来に発展的に受け継がれていくように願っております。

フェリスホールの地下ロビーに、倉長治子先生より寄贈された、重岡治作「十字のピエタ」像が設置されました。どうぞ皆様御覧下さい。

—計報—

音楽科開学当初から長年に亘り、「指揮法」を講義して下さった山田一雄先生が1991年8月13日逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

—第二の人生をカフェ・コンセール デュモンで—

元大学事務部次長 雨宮節子 (3回)

カフェ・コンセール デュモン オープンの日、15坪の私の店は、沢山のお客様で埋まっておりました。その中に、お世話をになった三宅洋一郎先生や倉長治子先生の懐かしいお顔がありました。シャンソンを歌いながら皆様にご挨拶している私の心に、過ぎ去ったフェリスでの思い出が、つぎつぎによみがえってまいりました。

昭和25年 入学試験でCaro mio benを歌っていた頃のこと。試験官は三宅洋一郎、三宅春恵、倉長治子、園伊政磨……の先生方であったと思います。

昭和26年 病のため、学校を去らなければならなくなってしまったこと。悲願であった入学だけに、くやしかったこと。

昭和33年 水い病の生活を終えて、助手として4号館(当時の音楽科の校舎)に通ったこと。

昭和47年 専任の事務職員としてフェリス女学院に採用されたこと。そして、昨年12月31日に退職するまでの20年間を、音楽科と共に歩んでまいりました。

カフェ・コンセール デュモンでの或る日、当日のライブのためにピアニストと練習をしている所へ、田中順先生が顔を出されました。私が歌っていたのは、バルバラの「孤独」というシャンソンでした。

夜更けの街を一人で歩くと、私の靴音がこだまして聞こえる。時計の針が時を刻むように、ひとつひとつ胸に響いてくる。

誰も行かない神秘の森の、その奥にある深い湖に、沈んで輝く小石ほどの、重さが私にあるのでしょうか。

苦勞を共にした友の姿を前にして歌い、過ぎ去った日々を思い、胸が熱くなりました。

カフェ・コンセールをオープンして、3ヶ月がたちま

した。折にふれて、フェリスでの経験が、私を支えていくことに気づきます。事務職員の仕事、特に学校という組織の中で生きることは、大変なことです。私も人と人との間に立ち、忍耐強く、辛抱強く生きてまいりました。そして私は、フェリスに育てられました。

私は今、心の歌を歌って、これから第二の人生を生き、一人でも多くの人々の心に触れて生きたいと思っています。人生80年の時代、59歳での出発も遅くはないと思うのです。

音楽科も音楽学部となり、来年度には学部の卒業生を送り出すことになります。多くの卒業生が、それぞれの生き方で、フェリスで受けた教育のあかしをして行くことでしょう。

音楽ホールで鳴り響く、パイオルガンの調べを背にして、山手の丘を降りた私は、フェリスで受けた教育と、経験をもとに、第二の人生をより美しく生きるつもりでおります。感謝の心をこめて。



海外便り

卒業後、海外で勉強したり、活躍していらっしゃる方が増えてきました。その中で今回はドイツとアメリカからお便りを寄せていただきました。又お子様を留学させていらっしゃるお母様からもお話を伺いました。

高梨美知子 (1回)

『高梨さんおめでとう。美知子さんと初めて接したのは、既に7年前のこと、フェリスの教室で可愛いらしいがどこか根性のしっかりしたものを持ったお嬢さんであることを直感したのでした。口もろくろきかず兎に角歌を2、3聴いてみました。見かけの直感以上に、もう基礎が可成り出来上った立派なものを持っているので驚いたものでした。それもその筈、フェリスに入学する前に、ベルトラメリー能子と言う良先生に就いて勉強して居たことを知って、全てが首肯けたようでした。在学中は巾広い積極的な勉強を続け、立派に卒業しました。その後直ちに二期会に入会し専門的舞台で鍛え益々芸術的にも人間的にも向上して行く姿を見て喜ばしく思って居ました。持ち前のファイトで比度ドイツで一層自己を鍛錬すると言う。私も田師として芸術家の一人として祝福の言葉を挙げたいと思います。』 木下 保

これは私の渡欧記念の独唱会に寄せて下さった木下先生のお言葉です。この演奏会の4日後に私は日本を出てベルリンに留学致しました。当時は26歳で、声楽科に入学するには多少遅いと申せますが、幸運に軽いソプラノ等とは異って声の成長に時間がかかるメツォソプラノであったことで、国立音楽大学の5学期、オペラクラスに入学が許されました。私の希望通り、エリザベートグリュンマー先生に取って頂け、一週間に2度声楽のレッスンがありました。その中一度は発声のレッスンで、テクニックを作るのにも段階がある事を知りました。正しい呼吸法。共鳴孔をきさえする骨や筋肉を鍛える。声帯を正しく閉め呼吸の上で歌う事。子音や母音の作り方、デュナミックと音色の作り方等々。他の時間は解釈のレ

ッスンで、伴奏者が居てリート、オラトリオ、オペラを上げて行くのです。その際、先生は私の相手役となられ、射放される輝きをじかに受けた感激は私の胸中に今も大切におさめてあります。ベルリン音楽大学に学んで2年半後に、ケルン国立劇場と契約が出来、それを機に大学を卒業致しました。ドイツ人の主人と結婚をし、一女も誕きました。ベルリン音楽大学で講師又客員教授として教えた後、1986年よりシュトットガルト国立音楽大学の声楽教授として教えております。ケルンのオペラハウスに入る時にも、ベルリンやシュトットガルトで教授になる為にも多勢の競争者を相手に厳しい試験がありました。家庭と仕事を両立させてくれるのは、私が何よりも音楽を愛しているから、主人の理解と協力があるから、又ドイツの社会制度がそれを許せる環境にあるからです。活動には秩序も必要ですが相手や他人の言葉や行為を尊重することがいかに大切であるかを、自己中心になりがちな世界に入って体験しました。練習や本番に出掛けれる為にどんなに多くの友人の助けを得た事でしょう。勿論私も喜んでペーパーシッターのお返しを致しました。日本人である私が、風土も習慣も異なる西洋の音楽を解釈し、言葉や響きを分析し、客観的な視点から教えられるというははある意味プラスになるかもしれません。又ヨーロッパに来て初めてから違和感を持たなかったのは、フェリスで学び、キリスト教と言う宗教を根本に持ち、インターナショナルな校風の中で知らぬうちに自信と誇りが与えられたのかもしれません。

シュトットガルトより

鮑許 球好 (13回)

私の住んでいるこのヒューストンは、アメリカの丁度真ん中で、メキシコ湾に面した所にあります。15年前、6年間住み慣れたロスの郊外から主人の転勤で引越して来た当時は、毎年やって来るアメリカ南部の独特の夏の暑さには閉口しました。3年前この大木の多い町の一角に移って来てからは、やっとヒューストンは緑の多い実に清潔な所だとよく友人に自慢する様になりました。特に春は最高です。

又、この2、3年嬉しい事はヒューストンシンフォニーの格別の成長ぶりです。クリストフ・エッシュンバッハが指揮者になってからのヒューストンシンフォニーの演奏は結構楽しい物になってきました。昔の田舎シンフォニーと違って一段と質が良くなって、団員が文句なしにコンダクターを尊敬しているからか、音がどんどん引き締ってきて、聴く度に良くなったと思います。又彼の隣のモーツアルト・コンツェルトは今やヒューストンの名物で、とても人気があって、クラシックファンにとって、聴き逃せないプログラムです。3年前モストリーモーツアルトのソリストとしてヒューストンに現われた時は、一週間に9曲のコンツェルトを弾きこなし、今までのShow off(みせびらかすの意)スタイルでなく、(私が最初アメリカに来た頃、若かったせいもあって、コンテストの勝者の様に颶爽と舞台に現れ、自由な形でサービス精神を忘れずに、聴衆を我のものに引きつけて弾くスタイルが珍らしく、魅力でもあった頃がありました。)舞台での彼は、洗練されたスタイルで、チェンバーの中にあって載れる貴公子の様にとても気品が高く、これぞモーツアルトだと、そこにいた聴衆の誰もが思った事でした。一夜にしてセンセーションを巻き起こした彼は、その後私たちのリクエストに応えて、彼はどうとうヒューストンシンフォニーの首席コンダクターになり、シンフォニーをすっかり改革して、こんな短い間に立派に、誰もが誇りに思うシンフォニーにしてしまいました。これを書いて

いる最中に、ヒューストンシンフォニーが日本へ行くニュースを新聞で知り、クラシック市場の世界的レベルを持つ日本に迎え入れられる事を嬉しく思いました。ヒューストンの一市民として、ぜひ日本で良い仕事が出来る様に、声援を送りたいと思います。

彼の様な一外国人があまり障害もなくスムーズに暖かく迎えられ、自由に思う存分気ままに仕事が出来るのは、アメリカの一豊かな所で、(彼の場合は当然の成り行き)アメリカはすべての仕事の出来る外国人に対してはとてもオープンです。商業、工業、農業、医学、芸術、科学あらゆる方面で活躍している外国人が多く、ヒューストンは特にアメリカのど真ん中にあります。17、8年前から結構やる気のある外国人が流れ込んで来ました。私も仕事をする外国人の一人として、一生懸命やれば目的は必ず到達するというやる気を起させ、誰にでも機会を与えてくれる國の大きさは、他の国にはない優れた点だと思います。私もこうやって、今はヒューストンヤングアーティストコンサートのチアマンをやらせて頂いているのも、アメリカだからこそです。この国は学校以外の活動はスポーツ奨励の傾向が強く、放置すれば一般の子供は大人になるまで殆どクラシックミュージックにかかわり高い興味を持たないまま成長してしまいます。私は、ユダヤ系ソヴィエト出身のピアニストと志を共にして、青少年の間にクラシックを普及させようと今はいろいろと進行中のところです。年一回のオーディションをパスした子供達の恒例の天才児コンサート、外部から申し出があれば大小のプログラムを組んで発表しています。今は、ケーブルTVにプログラムを持っていますが、将来は是非一般的のテレビの教育番組にと、程よい希望を持って、二人は残り少ない情熱を燃やしています。

ヒューストンより

娘の留学地を訪ねて

岡本 博子 (15回)

娘がフェリスの専攻科を卒業後フランスへ飛び立ったのが昨年9月、心配と共に明け暮れて早くも1年がたちました。本人がわかっているのは西も東も地図の上だけ、片言の仏語で遊ぶも頼まず、一人でドゴール空港へ着いて自分で予約したホテルへ。思っていたより小さなホテルでいい分探し歩いた様子でしたが、仏人は皆親切と肌で感じて翌朝シテ・デ・ザールへ無事到着。その足でアリアンスの語学学校の入試と手続きをすませてからやっと日本へT E L。その電話を待つ時間の長かったこと……。

この度娘に会ってパリの生活にもすっかり慣れなんとか仏語も通じて生活している様子でホッとしております。『留学生活』我娘の場合

『まず初めに宿舎あり』から出発してその後学校「パリ・エコール・ノルマル音楽院」を受験しました。学校では、隔週1時間の実技レッスン、毎週アンサンブル、声楽の伴奏、ソルフェージュだけで、週3、4時間程。これ以外は実技の練習に明け暮れているようです。

宿舎、シテ・デ・ザールは、パリの中心地とも言えるパリ市役所のそばに建っていて、新田舎共に一室づつフェリスが権利を持っており、その一室を2年間お借り出来る事になりました。ここのお住民は様々な国の人達で音楽を専攻する学生でお互いに大変良い刺激になっているようです。今回訪ねてみて、厳重な門扉、手入れの行き届いた建物・快適な生活と安全への気配りに何より安心致しました。又、地理的にも地下鉄の発達で、どこへ出かけるにとても便利。セーヌ川岸でノートルダム寺院の鐘は聞こえますし、ルーブル美術館も地下鉄で近く、ルーブルから橋を渡ればオルセ美術館、その先にオランジュリー美術館という美術館。その他名の知れない美術館はシテ・デ・ザールのまわりにもいくつかあり、静かでゆっくり見学出来ます。ベルサイユ宮殿の庭園を小型にしたお庭もあり、散歩には大変恵まれた所です。私は限られた時間で思うように回れませんでしたが、2年間あればたっぷり堪能できることでしょう。

私の出かけた7月上旬はパカンスに入る頃で音楽会も少なく、唯一オペラ座で、バレエプロコフィエフの『ロミオとジュリエット』の切符を予約で取ってもらいました。ナポレオン三世の時代の荘重な建物で、大理石の階段、丸い天井には一面に絵が描かれ、所々音楽家のサインが印され歴史の重みが伝わってきます。ピロードのボックス席のステキな椅子に身を沈めてゆっくり観賞していました。

音楽会へは学生券で入れるが、様々なコンサートに足を運んでいる様です。1か月毎の便りには、聞きに行った音楽会の報告が便箋一枚にぎっしり書かれてあります。シテ・デ・ザールの中で沢山の友達に恵まれ今の生活を満喫している様子をみて、改めてこの宿舎を利用させて頂いた幸運を感じました。娘の生き生きとした毎日の様子をみて、ここを用意して下さったフェリス女学院と先生方の御協力に、親子共々深く感謝しております。後1年間、無事過ごすことを願いつつ帰路につきました。



弦楽器の音をいつまでも

日比野 審子 (14回)

一昨年の秋、フェリス女学院短大音楽科が4年制になると伺い、よろこび思いましたのもつかの間、声楽科とピアノ科のみになるという事を聞き、最初は耳を疑い、さびしくて、悲しくて、又大変複雑な心も思いました。けれど、学校として4年制になるには、いたしかたない事なのでございましょう。

そこで、昨日4月、20数年間フェリスでご指導いただきました、久保田良作先生に、バイオリン科の卒業生一同で「感謝の会」を致しました。

その会で、11回生から39回生の卒業生がほとんど全員で、チャロ科の卒業生も一緒に、弦楽アンサンブルを致しました。卒業以来、初めて顔を会わせ、1回だけのリハーサルでしたが、皆の心が一つになりましたせいで、久保田先生の指揮のもとで、とても気持ちの良い演奏でした。以来、「フェリスから弦楽器の音を消さたくない」という気持ちもありました。これからも卒業生で、アンサンブルを続けたいという皆様の願いがかないまして、久保田先生も快くご指導下さいます事になり、又学校も練習場所を提供していただき、一同大変感謝いたします。

現在二か月に一回程ですが、横浜近郊ばかりではなく、仙台・京都・大阪・名古屋・茨城等、遠方からも毎回集まって、一生懸命練習に励んでおります。弦楽科が無くなってしまった事は、悲しかったですけれど、11回生から39回生までが一つになって、ご立派な先生のもとでアンサンブルが出来るようにになりました事は、神様のお導きと、感謝しております。

そして、Fグループの会等、チャンスがありましたら、演奏の場を持ちたいと願っております。

最後になりましたが、音楽学部の、ますますのご発展をお祈りいたします。

〈西南支部〉

牛島 悅子 (19回)

今年は、春からの雨の多い天候に加え、雲仙の噴火で不安な夏を予想しております。

本当に一年が過ぎるのは早いもので、連絡をいただいて、もうお便りを書く時期なのだとあわてました。といいますのは、昨年5月に私はミニ・サロン風(数人の有志の方に演奏をお願いしました。)の集いをいたしましたのですが、その後、今年は計画が進まないまま、今日に至っているのです。改めて今年のことを考えてみたのですが、もうすでに半年もたっているので、今回は取りやめにいたしました。そうなりますと、本当に報告することがなにもなくて、申し訳なく思っています。

幸い、毎年秋に、白百合会・西南支部として、中高・国文科、英文科、短大家政科、音楽科合同の同窓会が行われますが、そのお当番が今回は音楽科なので、そのときには便乗して、本部の方からどなたか音楽科の先生をお招きしたいと考えております。来月(7月)に入ってから、具体的に計画を進めてゆきたいと思っています。

又、8月28日には、福岡県久留米市で、当地在住の小野直子さん(33回)が、恩師である大島君子先生と、ショントリサイタルを開催される予定になっております。卒業生一同、ぜひ応援にかけつけたいと思っています。先生におめにかかるのも楽しみです。

このところ、新卒者の名簿等が手元にないので、その動向がつかみにくくなってきております。同時に、西南方面から大学への進学者も、以前に比べて少なくなっているのではないかと思われます。

出来れば、一年に一回程度は集まって、互いに親睦を図ると共に、母校の発展を支えてゆきたいと願うものです。

フェリス女学院大学音楽学部 教員一覧											
声楽学科	朝倉 菲	生	桑原 妙	子	田中 奈美子		林 廣子	廣子	川野 達	博子	子
	江口 元	子	鈴木 寛	子	田中 貴	子	花 岩	子	芳 渡	明	
	大村 明	子	立木 梢	子	辻 有	子	田村 安	子	宮 本	とも	
	金子 良	子	田中 順	子	花 雅	子	坂 岩	子	山 岡	子	
器楽学科	安藤 友	侯	河野 元	恵	田 岸	子	林 佑	子	山 崎	冬	
	上原 興	隆	児玉 恵	子	佐々木 達	子	三 裕	子	山 崎	冬	
	宇野 紀	子	佐々木 勇	子	高 山 美	山紀	水 伸	子	村 井 規	子	
	大島 君	子	宗 施	月子	田 口 純	子	中 田 喜	子			
	辛島 仔	緒子	高 山 美	山紀	佐藤 翠	子	原 恵	子			
	久保 荘	浩	田 中 美	山	寺 本 章	子	松 本 日	之春			
	荒川 恒	子	佐藤 翠	子	中 内 瑛	子	水 野 勉	子			
	岡島 雅	子	寺 本 章	子							
	小泉 ひろし										
	鹿田 治	子									

(50名)

同窓会連絡会

同窓会連絡会主催のクリスマス礼拝は、今年3回目を迎え、下記の通りです。

皆様お説明の上御参加下さいますようお願い申し上げます。

フェリス女学院同窓会クリスマス礼拝

日時 12月14日(土) 午後2時

会場 カイバー講堂

—「Fグループジョイントリサイタル」のお知らせ—

91. 9月25日(土) 6:30PM フェリスホール 2,000円
吉岡久美子 (34回) FL
藤田 直子 (32回) V.
菅田 美子 (32回) V.

—今年度「Fグループ研修会」のお知らせ—

91. 12月14日(土) 10:00AM フェリスホール 2,000円
アンリエット・ビュイギ・ロジェ先生の公開レッスン

—Fグループ後援演奏会—

90. 11月6日(日) 江口元子リサイタル(4回)
サントリーホール (小)
90. 12月13日(日) 田野智子ピアノリサイタル(34回)
関内小ホール
90. 12月17日(日) 鈴木康子(30回) 井上久美子デュオリサイタル
文化会館小ホール
91. 3月3日(日) グループ75コンサート
きゅりあん小ホール
岩崎ひとみ、成田紀子 他5名(28回)
91. 4月14日(日) 高橋和子(37回) 關佛葉子ジョイントリサイタル
大倉山記念館

91. 5月26日(日) "Amies" コンサート
関内小ホール
川辺智子、田村郁子 他7名(32回)
91. 6月29日(日) 石井美智子ソプラノリサイタル(6回)
サンハート音楽ホール

91. 7月7日(日) 24期生による演奏会
サンハート音楽ホール
田口純子、藤原純子 他6名
91. 9月13日(日) 竹藤定子メゾソプラノリサイタル(12回)
富士文化センター

91. 11月2日(日) 加藤弘子(32回) 平松聰子(33回) ふたりのピアノコンサート
電気文化会館コンサートホール
後援の申し込みは、執行委員、今井久美子(27回)まで文書でお願いいたします。ただし、年1回、3ヶ月前迄、役員会で承認したものといたします。

—F.C.サロンコンサート中止のお知らせ—

F.C.サロンコンサートは16回の35名の出演で、3月7日をもちまして、一応終了いたしました。本年度はFグループ主催のコンサートのみ行います。来年度より場所を変えて行う予定です。是非ご協力下さい。

以上お申込み、お問い合わせは執行委員、今井(27回)迄お願いいたします。

〈中部支部〉

峯澤 紗子 (14回)

お便り申し上げます。本年より下記の通り新役員が決定いたしました。

支部長 峯澤 紗子 (14回)

副支部長 服部 幸子 (20回) 牛込 真理 (25回)

役員 伴野さち子 (21回) 金久保珠美子 (22回)

都築 典子 (23回) 大庭千恵美 (25回)

田村 亜弓 (36回) 壁谷 基子 (36回)

催事報告申し上げます。

1. ジュニア・シニアコンサート

出演者 約70名

日時 平成3年3月31日

特別演奏として壁谷基子さん(36回)が、モーツアルトを1曲弾いて下さり、大変好評でした。

2. 大橋多美子さん(20回)の県芸術文化選奨文化賞を受賞いたしました。

3. Fグループフレッシュコンサート

9月24日 名古屋芸術創造センター

大林真弓(40回) 濱野晶子(39回) 住田桃衣(38回)

間 和子(37回)

特別出演として、芳野靖夫先生が演奏して下さいます。

4. 今後の予定としては、来春三宅洋一郎先生の公開講座と、秋にはブームスをテーマとしたコンサートを計画しております。

お知らせ

上記にも御紹介がありました様に、名古屋を中心に関東、オラトリオ、リートの演奏で活躍している大橋多美子さん(20回)が、1991年愛知県芸術文化選奨文化賞を受賞されました。同窓生一同よりお祝い申し上げます。

1990年度 会計報告	
取 入	支 出
前年度被借金	11,362,636
40周年記念譲上	1,578,531
募金委員会より返金	1,000,000
総会会費	148,000
研究会会員料(シニア)	132,500
セミコンサート(3月分)	122,000
カード販売上	82,100
旅券会後援費	5,000
名簿代	1,000
宛名シール売上	450
横浜銀行利息	34,588
富士銀行利息	11,428
合 計	14,478,233
	合 計
	次年度繰越金
	8,310,551

—報—

板垣(旧長沢)千代子さん(14回)が、1991年6月4日に逝去されました。謹んで、哀悼の意を表します。